



2013年2月15日

朝鮮民主主義人民共和国
国防第一委員長 金正恩様

日本YWCA
会長 俣野尚子
総幹事 西原美香子

朝鮮民主主義人民共和国の核実験実施に対する抗議声明

朝鮮中央通信(KCNA)は、2月12日に朝鮮民主主義人民共和国が2006年10月、2009年5月に続く3回目の核実験を実施し、この核実験は「米国の敵対行為に対して、国家の安全と主権を守るための対抗措置の一環」として報道しました。

日本YWCAは、貴国が実施した核実験が地球規模の環境破壊はもちろんのこと、それが東北アジアの平和と安定を脅かす取り返しのつかない事態を招くことになると、強く抗議します。

これまで日本YWCAは、被爆国としての経験から核の脅威を伝えようと、1970年より「ひろしまを考える旅」を実施してきました。ヒロシマ・ナガサキを経験した方たちの証言に耳を傾けながら、核兵器の廃絶を願って行動してきました。また原発をはじめとする「核」の平和利用についても、すべては核兵器の開発につながっていることを、国際NGOとして国内外の多くの人たちに伝える努力を続けています。

私たちはまた、朝鮮半島や中国の姉妹団体との草の根の対話を通じて、東北アジア地域の平和と安定を追求してきました。また日本が歴史上犯した過ちへの反省に立ち、日本軍の性的搾取に遭った女性たちや朝鮮半島にルーツを持つ子どもたちの人権のために日本政府に対して声をあげてきました。

このような活動を続ける中で、日本YWCAが確信をもって貴国に伝えたいことは、「『核』で平和と安全はつくれない」ということです。

昨今、貴国が厳しい国際情勢に直面しているとはいえ、人類の脅威である核兵器を開発することで他国からの経済制裁がさらに強まれば、貴国の国民、ことに今もなお食糧難に苦しむ子どもたちがますます苦しい状況になることが予測されます。未来をつくる子どもたちを健康に育てることは、国家間の利害関係を超えて、互いの国が手を差し伸べて行わなければならないことです。国家間の緊張からくる脅威を解消するには対話と信頼関係の構築以外の方法はありません。だからこそ、貴国が核の開発を進めることなく、対話のテーブルに着かれることを願わずにはられません。

東北アジアの平和や安定は、地球規模の平和につながります。子どもたちの未来を考え、貴国の政策が核開発や軍事力の強化に突き進むことなく、他国との対話を進める英断をされることを強く求めます。